

じぶんと

マイ・プラン or 私のリアル・イメージ

ダニ・カラヴァンさんと語ろう part-2 by 地域づくり実験工房

■日時 95 10/10 (火) AM11:00~PM5:00
12 (木) AM 9:30~PM5:00
13 (金) AM 9:30~PM4:00

■場所 山梨県立美術館講堂 〒400 甲府市 黄川1-4-27
TEL 0552 (28) 3322

■協力 山梨県立美術館・新都市設計(株)

■主催 地域づくり実験工房95&環境芸術ワークショップ

■連絡 山梨県庁県民生活課(担当・窪田)
TEL 0552 (37) 1111

■出展作家 環境アートフォーラム(Part-1 7/2)に参加いただいた地域づくり実験工房メンバー&地域で活躍するアーティスト

- ・市川賢一 (美術家)
- ・窪 龍二 (美術家)
- ・久保田要 (建築家、(株)KBK久保田建築設計事務所)
- ・窪田洋二&種板 真
(公務員、都市プランナーグループ)
- ・島津英昌 (プランナー、Design ws by APE)
- ・清水司郎 (デザイナー、音戯の会)
- ・城野仁志 (公務員、クライנגルデン)
- ・高橋匠雄 (美術家、環境芸術ワークショップ)
- ・仲田道弘 (公務員、仲田エンタープライズワイン事業部)
- ・名鉄隆高 (田舎町まちづくり時習塾・めだかプロジェクト)
- ・内藤和子&山路恭之助・岡本美恵子
(公務員、須玉の食文化を考える会・どくだみの会)
- ・野沢今朝幸 (JA職員、芦川村石垣コミュニティ)
- ・藤原俊男 (環境音楽家、(株)ヌースアートクリエイション)
- ・堀内 薫 (都市計画事業家、新都市設計(株))
- ・丸山 優 (公務員、ネイチャーフォトグラファー)

■開催主旨 フランスを中心に様々な歴史、環境、都市を舞台に活躍する環境彫刻家ダニ・カラヴァンさんを迎えて、同時代の都市デザインの思想を学ぶと共に、“場所の記憶との対話”をキーワードに、私たちが住む盆地特有の風土にどんな都市づくりが可能かを広範な人々と手づくりのワークショップをしながら考えています。

環境アートフォーラム「ダニ・カラヴァンさんと語ろう part-1」で、スライドによるレクチャーや会場での対話を伺い、カラヴァンさんの果敢な表現の内容を知り得たことは言い知れぬ刺激となりました。同時に、私たちひとりひとりの日常の営みや社会に対するスタンス、また志す芸術の方向性が良く見えてきた気がします。山梨県立美術館でのダニ・カラヴァン展を見、シンポジウムを聞いて感じたこと考えたことをそれぞれの現場に持ち帰りここ数年の自らの実践と共に作品化し、発表してみたいと思います。美術館が専門家だけではない開かれた提言の場であることも、テーマのひとつに思えます。

なお、このイベントは、地域づくり実験工房(県内各地で地域づくりに取り組んでいる人々の自主的なネットワーク)と環境芸術ワークショップとの共催で、準備、開催いたします。



1 | DANI KARAVAN



2 | KANAME KUBOTA



3 | TATSUO TAKAHASHI

DANI KARAVAN



■ アートフォーラムに参加して。また、ダニ・カラヴァン展を見た感想コメント。

人は命の確認のために創りつづける。その過程で天使や偶像の存在は古今東西同じである様で、悪魔ウィルスにはなりたくないものだ。こうしたい、こうありたいと言える個が認められる時代のド真中、開かれた良質な核を持つ細胞と創造的に関係を尊重し合い、創りつづけたい。場所の記憶の中から愛と勇気をいっぱいくれたダニカラヴァンさんありがとう。

■ 「じぶんてん」の展示表現のテーマ、タイトルについて。

場所の記憶との対話は事実を歴史軸で認めることから始まる。今生きている事実は神話の無限性とは違う真実がある。建築はその場所を財として所有した時代から、知的に歴史的に所有する価値に変化している。それ由場所と人の創造的関係を具体的に表現すると生き方としての建築となる。建築は場所と人の創造的な関係の中から生まれる『かたち』である。

■
I believe that mankind has a lot of will to continue creating works in order to confirm the reality of life.

In every age. We come across both angels and devils in wherever the East or the West. I would never like to be a kind of devil-virus.

Today, in the middle of the age that esteem the person having clear opinion about what to do or what to be. I would like to go on respecting the creating relation between the people(cells) of high quality who have the open core in their mind. That is the source of my creative power.

Much thanks for Mr. Dani Karavan. He has presented us plenty of love and courage which is gained from the memory of the places.

■
A dialogu with the memory of the place begins from recognizing the facts through the perspective of historical axes.

Now lively reality has the truth that is different from the impersonal "myth" which has no concept of time.

The architecture has changed its meanings from the age when it possessed the places as commercial security, to the present time when it hold the value in common.

So, the concrete expression of creative relation between the place and people become the architecture as the way of life.

I think that the architecture is "katachi"(the form) born from creative relation between the place and humanity.
